

実習前評価システムに関する一つの考察 V

杉 本 大 輔・上 原 正 希

星槎道都大学研究紀要

社会福祉学部

第 2 号

2021 年

実習前評価システムに関する一つの考察 V

杉本大輔・上原正希

要約

本稿では、本学が実施している実習前評価システムの2020年度の実施報告と、その結果分析及び、それらから導かれる、2021年度から開始される新カリキュラムに対する本学の学習課題を提示する。

本稿では一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロック加盟校が実施している実習前評価システム OSCE の本学における2020年の実施状況と、その結果分析の詳解、および、そこから考察される、本学2年次における相談援助実習における構造化された面接場面における教育課題について述べていきたい。本年、2020年は本学もご多分に漏れず、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大の影響により、変則的な講義構成を余儀なくされた¹。ゆえに、学生に対する教育的フォローが前年までに比べて、十分に行き届いていたか、少々不安を覚えていたが、このような変則的な講義展開ゆえにこそ、これまでのOSCE実施に見られてきた本学2年次の構造化面接における課題(身体技法の高得点化、及び面接内容の主訴の要約、質問技法の低得点化)が浮き彫りになり、今後の教育課題を、より一層明確化することとなった。これを僥倖というのは不謹慎であるが、本年度の相談援助実習をはじめとする各種実習教育の実施困難性(実習受け入れ機関による実習中止の多発、及びそれに伴う代替授業の設定)を考えるなら、実習に出す前の2年次において、実習教育全体にかかわる学生個々に見られる課題を明確化できたことは、今後の実習教育、2021年度から施行される新カリキュラムに備えた実習教育の整備という点では、大きな意味を残した実習前評価システムの実施であったと考える。また、今年度

は、OSCEの役割を固定し、利用者役を本学社会福祉学科上原正希教授にお願いし、評価者を杉本が終始、行うこととし、一貫した評価体制が確立されたと考える。

1, 2020年度星槎道都大学社会福祉学科実習前評価システム(OSCE)実施要領

夏休み直前の8月3日(月)の2年生科目「相談援助実習指導I」において、本年度の実習前評価システム実施を告知。実施日時は夏季集中講義「地域共生プログラムII」社会福祉士専攻学生対象の8月24、25日。24日の3、4講にDVD『面接への招待—核心を外さない相談援助面接の技法—』(監修 奥川幸子 渡部律子 中央法規)を鑑賞し、今年度の変則的講義展開により、学習内容に差が出ていることを考慮し、鑑賞中に映像を止め、面接における重点ポイントとOSCE実施にいたるまでの相談援助演習Iの重点内容を杉本が解説する。25日の1、2講にOSCE実施。上原正希教授が利用者役に徹し「地域包括支援センターにおけるインテーク面接」という場面設定のもとにロールプレイングを行う。所要時間は5分間。上原教授が利用者としての評価を、杉本が評価者としての評価を、それぞれ記入する。評価内容については、8月3日の講義中に配布・説明済み。受講生は本学社会福祉学科2年生37名。

評価者評価(5段階)

1, クライアントを迎え入れる態度	言葉	5	4	3	2	1
	動作	5	4	3	2	1
2, 椅子の勧め方	言葉	5	4	3	2	1
	仕種	5	4	3	2	1
	どちらが先に座るか	5	4	3	2	1
3, 対面のとり方(座る位置)		5	4	3	2	1
4, 初めのあいさつ	言葉	5	4	3	2	1
5, 自己紹介	所属	5	4	3	2	1
	職名	5	4	3	2	1

	役割	5	4	3	2	1
6, 倫理的配慮	守秘義務の伝達	5	4	3	2	1
	メモを取ることの断り	5	4	3	2	1
7, 主訴の聞き取り	切り出し方	5	4	3	2	1
8, 質問技法の的確さ (閉ざされた質問・開かれた質問)		5	4	3	2	1
9, 身体技法	傾聴の姿勢	5	4	3	2	1
	うなずき	5	4	3	2	1
	手や足を組んでいないか	5	4	3	2	1
10, 視線	相手の目を見ているか	5	4	3	2	1
	きょろきょろしていない	5	4	3	2	1
	相手の動きを追っている	5	4	3	2	1
11, 声音の様子	明確さ	5	4	3	2	1
	速さ	5	4	3	2	1
	抑揚	5	4	3	2	1
12, 主訴の要約は的確であったか		5	4	3	2	1

利用者評価 (5段階)

1, クライアントは気持ちよく迎えられたか	5	4	3	2	1
2, クライアントはワーカーの役割をよく整理できたか	5	4	3	2	1
3, クライアントは滑らかに相談関係には入れたか	5	4	3	2	1
4, クライアントは相談事を十分に聞かれたと感じたか	5	4	3	2	1
5, クライアントは相談事を十分に話したと感じられたか	5	4	3	2	1
6, クライアントは相談事を十分に理解されたと感じたか	5	4	3	2	1

なお、得点の評価内容は以下のとおりである。

- 5…非常によくできている
- 4…よくできている
- 3…できている
- 2…あまりできていない
- 1…全くできていない

2, 評価結果

評価者評価

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差	分散
迎え入れる態度 言葉	37	4.00	1.00	5.00	4.4324	1.14359	1.308
迎え入れる態度 動作	37	4.00	1.00	5.00	4.4865	1.04407	1.090
椅子の勧め方 言葉	37	4.00	1.00	5.00	4.2973	1.17532	1.381
椅子の勧め方 仕種	37	4.00	1.00	5.00	4.3784	1.08912	1.186
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	37	4.00	1.00	5.00	4.6216	1.13899	1.297
対面位置のとり方	37	4.00	1.00	5.00	4.5405	1.14491	1.311
初めのあいさつ 言葉	37	4.00	1.00	5.00	4.7297	.83827	.703
自己紹介 所属	37	4.0	1.0	5.0	3.676	1.8567	3.447
自己紹介 職名	37	4.00	1.00	5.00	3.2432	1.96363	3.856
自己紹介 役割	37	2.00	1.00	3.00	1.0811	.36350	.132
倫理的配慮 守秘義務の伝達	37	4.00	1.00	5.00	3.7838	1.65219	2.730
倫理的配慮 メモを取ることの断り	37	4.00	1.00	5.00	4.0541	1.64901	2.719

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差	分散
主訴の聞き取り 切り出し方	37	3.00	2.00	5.00	4.6486	.75337	.568
質問の方法的確かさ	37	3.00	2.00	5.00	3.2703	1.01786	1.036
身体技法 傾聴の姿勢	37	2.00	3.00	5.00	4.9189	.36350	.132
身体技法 うなずき	37	2.00	3.00	5.00	4.9189	.36350	.132
身体技法 手や足を組んでいないか	37	.00	5.00	5.00	5.0000	.00000	.000
視線 相手の目を見ているか	37	1.00	4.00	5.00	4.9730	.16440	.027
視線 きよろきよろしていないか	37	.00	5.00	5.00	5.0000	.00000	.000
視線 相手の動きを追っているか	37	.00	5.00	5.00	5.0000	.00000	.000
声音の様子 明確さ	37	3.00	2.00	5.00	3.7568	1.11568	1.245
声音の様子 速さ	37	4.00	1.00	5.00	4.0541	1.20060	1.441
声音の様子 抑揚	37	4.00	1.00	5.00	3.4054	1.27931	1.637
主訴の要約は的確であったか	37	4.00	1.00	5.00	2.4865	.80352	.646
有効なケースの数 (リストごと)	37						

評価者評価の平均値を比較すると、「身体技法 手や足を組んでいないか」「視線 きよろきよろしていないか」「視線 相手の動きを追っているか」は平均が5.00、つまり全員が5ポイント、最高点ということになる。昨年の実施では平均値5.00は「身体技法 手や足を組んでいないか」「視線 相手の目を見ているか」であった²。身体技法の項目が高得点であることは、例年のことであるが、本年度のように変則的な講義展開をやむなくされたの実施結果においても、このような高いポイントが抽出されるということは「身体技法 手や足を組んでいないか」については、面接技法学習というカテゴリーにおいて、学生に比較的容易に習得できるものであるといえてよい。他に、平均値を4.00を上回っている項目としては「迎え入れる態度 言葉」「迎え入れる態度 動作」「椅子の勧め方 言葉」「椅子の勧め方 仕種」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」「対面位置のとり方」「初めのあいさつ 言葉」「倫理的配慮 メモを取ることの断り」「主訴の聞き取り 切り出し方」「身体技法 傾聴の姿勢」「身体技法 うなずき」「視線 相手の目を見てい

るか」「声音の様子 速さ」であり、先述の平均5.00の3項目を合わせると、16項目が平均値4.00を上回ったこととなる。昨年の実施では14項目が4.00を上回っていたが、今年度は「倫理的配慮 メモを取ることの断り」「主訴の聞き取り 切り出し方」が昨年よりもポイントをあげている³。特に「主訴の聞き取り 切り出し方」は例年、ポイントが低い項目であったが、今年度は4.00を上回っている。また、今年度の評価者評価においては、ポイントの散らばりについても考察が必要である。前期、平均値4.00の16項目のうち、最小値が1.00の項目は、「迎え入れる態度 言葉」「迎え入れる態度 動作」「椅子の勧め方 言葉」「椅子の勧め方 仕種」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」「対面位置のとり方」「初めのあいさつ 言葉」「倫理的配慮 メモを取ることの断り」「声音の様子 速さ」の9項目に及んでいる(昨年は「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」「対面位置のとり方」の2項目)。これに関しては、今後の、より精緻な分析を行い、実習教育への反映すべきであると考え⁴。

利用者評価

記述統計量

	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差	分散
気持ちよく迎えられたか	37	3.00	2.00	5.00	3.5135	.96095	.923
ワーカーの役割をよく理解できたか	37	4.00	1.00	5.00	3.4324	1.16763	1.363
滑らかに相談関係には入れたか	37	4.00	1.00	5.00	3.4324	1.11904	1.252
相談事を十分に聞かれたと感じたか	37	4.00	1.00	5.00	3.5405	1.12038	1.255
相談事を十分に話したと感じたか	37	3.00	2.00	5.00	3.5946	1.06613	1.137
相談事を十分に理解されたと感じたか	37	4.00	1.00	5.00	3.4865	1.21613	1.479
有効なケースの数 (リストごと)	37						

利用者評価については、平均値の間に大きな差は見いだせなかったが、評価者評価同様に、各項目とも最大値と最小値の差が大きく、学生によって、点数の差が大き

いことが確認された⁵。

3, 因子分析

昨年度同様、今年度も因子分析を用いて、各項目内に潜在化している、共通の教育課題の抽出を試みた。なお、「身体技法 手や足を組んでいないか」「視線 きよろきよろしていないか」「視線 相手の動きを追っているか」は平均が5.00、つまり、分散が0であるため、分析項目からは除外した。また、分析方法は最尤法を用いた。

KMO および Bartlett の検定

Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測度	.636
Bartlett の球面性検定 近似カイ2乗	652.060
自由度	210
有意確率	.000

共通性^a

	初期	因子抽出後
迎え入れる態度 言葉	.970	.999
迎え入れる態度 動作	.921	.890
椅子の勧め方 言葉	.973	.999

	初期	因子抽出後
椅子の勧め方 仕種	.958	.953
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.931	.890
対面糸のとり方	.906	.876
初めのあいさつ 言葉	.802	.411
自己紹介 所属	.634	.288
自己紹介 職名	.651	.132
自己紹介 役割	.723	.249
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.875	.881
倫理的配慮 メモを取ることに断り	.876	.930
主訴の聞き取り 切り出し方	.826	.576
質問の方法の的確さ	.789	.518
身体技法 傾聴の姿勢	.887	.999
身体技法 うなずき	.851	.654
視線 相手の目を見ているか	.240	.016
声音の様子 明確さ	.892	.878
声音の様子 速さ	.861	.813
声音の様子 抑揚	.884	.850
主訴の要約は的確であったか	.742	.279

因子抽出法：最尤法

a. 反復中に1つまたは複数の1よりも大きい共通性推定値がありました。得られる解の解釈は慎重に行ってください。

説明された分散の合計

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和 ^a
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	
1	7.215	34.355	34.355	5.747	27.367	27.367	5.803
2	3.413	16.252	50.607	2.537	12.082	39.448	4.871
3	2.045	9.740	60.347	1.067	5.079	44.527	3.129
4	1.790	8.523	68.870	2.054	9.781	54.308	3.652
5	1.414	6.732	75.602	1.414	6.734	61.042	3.468
6	1.058	5.040	80.642	1.261	6.007	67.049	1.262
7	.823	3.919	84.560				
8	.686	3.268	87.828				
9	.622	2.962	90.790				
10	.405	1.929	92.718				
11	.356	1.696	94.414				
12	.293	1.397	95.811				
13	.228	1.085	96.896				
14	.199	.949	97.845				
15	.123	.586	98.431				
16	.106	.504	98.935				
17	.070	.335	99.270				
18	.056	.266	99.536				
19	.051	.242	99.778				
20	.036	.173	99.951				
21	.010	.049	100.000				

因子抽出法：最尤法

a. 因子が相関する場合は、負荷量平方和を加算しても総分散を得ることはできません。

因子行列^a

	因子					
	1	2	3	4	5	6
迎え入れる態度 言葉	.962	.145	.230	-.018	-.006	-.008
椅子の勧め方 言葉	.938	-.259	-.230	.008	-.006	-.004
椅子の勧め方 仕種	.819	-.244	-.251	.039	.300	.261
迎え入れる態度 動作	.815	.046	.241	-.008	.315	.256
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.773	-.139	.208	-.127	.310	.343
対面糸のとり方	.685	-.142	.241	.113	.404	.391
主訴の聞き取り 切り出し方	.581	.342	-.032	.190	-.144	-.251
視線 相手の目を見ているか	-.099	-.022	.062	-.016	-.034	.008
身体技法 傾聴の姿勢	.103	.989	-.098	-.004	.001	.003
身体技法 うなずき	.057	.788	-.053	.166	-.006	-.003
自己紹介 役割	.002	.095	.435	.121	-.015	.189
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.386	.380	.270	.625	.252	-.246
声音の様子 速さ	.380	.246	.153	.573	-.477	.170
倫理的配慮 メモを取ることの断り	.455	.404	.201	.541	.378	-.289
声音の様子 明確さ	.371	.352	.247	.493	-.349	.436
声音の様子 抑揚	.432	.238	.269	.461	-.435	.364
質問の方法的確かさ	.356	.141	.395	.436	-.103	.120
主訴の要約は的確であったか	.162	.055	.270	.393	-.084	.124
初めのあいさつ 言葉	.325	.092	.140	.258	-.383	-.253
自己紹介 所属	.309	-.040	-.104	.223	.161	-.324
自己紹介 職名	.009	-.203	.049	.127	.091	-.253

因子抽出法：最尤法

a. 6個の因子が抽出されました。10回の反復が必要です。

適合度検定

カイ2乗	自由度	有意確率
121.054	99	.065

パターン行列^a

	因子					
	1	2	3	4	5	6
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	1.031	-.063	-.042	-.134	-.042	.153
迎え入れる態度 動作	.946	-.040	.081	.005	.007	.157
対面糸のとり方	.946	.119	-.103	.092	-.272	.111
椅子の勧め方 仕種	.896	.035	-.012	.086	-.223	-.430
迎え入れる態度 言葉	.701	-.039	.077	-.047	.516	.144
椅子の勧め方 言葉	.660	.020	-.143	.037	.287	-.404
声音の様子 明確さ	.096	.881	.181	-.156	-.048	.065
声音の様子 抑揚	.071	.870	.030	-.180	.121	.086
声音の様子 速さ	-.171	.863	.001	.019	.190	-.072
質問の方法的確かさ	.096	.502	-.133	.176	.116	.241
主訴の要約は的確であったか	-.015	.465	-.154	.166	-.020	.137
身体技法 傾聴の姿勢	-.010	-.106	1.082	-.096	-.003	-.047
身体技法 うなずき	-.108	.063	.798	.060	-.064	-.068
倫理的配慮 メモを取ることの断り	.116	.004	.174	.825	.011	-.001
倫理的配慮 守秘義務の伝達	-.012	.185	.082	.785	.035	.052
自己紹介 所属	.012	-.119	-.107	.508	.135	-.236
自己紹介 職名	-.128	-.090	-.321	.347	.113	-.003
初めのあいさつ 言葉	-.255	.277	-.159	.114	.573	.033

	因子					
	1	2	3	4	5	6
主訴の聞き取り 切り出し方	.064	.045	.245	.194	.455	-.150
自己紹介 役割	.087	.233	-.087	-.067	.000	.442
視線 相手の目を見ているか	-.071	.017	-.053	-.041	.012	.086

因子抽出法：最尤法

回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法^a

a. 9回の反復で回転が収束しました。

構造行列

	因子					
	1	2	3	4	5	6
迎え入れる態度 動作	.925	.378	.184	.405	.397	.065
椅子の勧め方 どちらが先に座るか	.920	.263	-.016	.217	.286	-.010
椅子の勧め方 仕種	.889	.224	-.089	.231	.309	-.457
迎え入れる態度 言葉	.885	.484	.299	.445	.781	-.049
対面糸のとり方	.884	.370	-.004	.363	.169	.080
椅子の勧め方 言葉	.842	.278	-.094	.228	.645	-.572
視線 相手の目を見ているか	-.088	-.025	-.041	-.057	-.063	.070
声音の様子 明確さ	.353	.917	.464	.291	.362	.236
声音の様子 抑揚	.377	.907	.357	.258	.455	.172
声音の様子 速さ	.250	.876	.367	.341	.513	.064
質問の方法的確かさ	.360	.648	.246	.448	.343	.299
主訴の要約は的確であったか	.183	.480	.126	.301	.156	.223
身体技法 傾聴の姿勢	-.001	.259	.986	.302	.266	.219
身体技法 うなずき	-.024	.312	.800	.342	.207	.211
自己紹介 職名	-.011	-.079	-.184	.171	.042	-.038
倫理的配慮 メモを取ることに断り	.432	.436	.535	.946	.418	.233
倫理的配慮 守秘義務の伝達	.355	.538	.508	.911	.409	.291
自己紹介 所属	.229	.057	.038	.414	.293	-.197
主訴の聞き取り 切り出し方	.385	.408	.451	.466	.685	-.136
初めのあいさつ 言葉	.125	.419	.167	.278	.564	-.036
自己紹介 役割	.093	.286	.106	.124	-.013	.433

因子抽出法：最尤法

回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

因子相関行列

因子	1	2	3	4	5	6
1	1.000	.373	.074	.360	.438	-.114
2	.373	1.000	.384	.385	.434	.179
3	.074	.384	1.000	.421	.318	.283
4	.360	.385	.421	1.000	.363	.242
5	.438	.434	.318	.363	1.000	-.227
6	-.114	.179	.283	.242	-.227	1.000

因子抽出法：最尤法

回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

因子の解釈

第1因子

「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」「迎え入れる態度 動作」「対面位置のとり方」「椅子の勧め方 仕種」「迎え入れる態度 言葉」「椅子の勧め方 言葉」



クライアント入室時の信頼関係形成

第2因子

「声音の様子 明確さ」「声音の様子 抑揚」「声音の様子 速さ」「質問方法の的確さ」「主訴の要約は的確であったか」



面接における質問時の配慮

第3因子

「身体技法 傾聴の姿勢」「身体技法 うなずき」



面接時の身体技法

第4因子

「倫理的配慮 メモを取ることに断り」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」「自己紹介 所属」「自己紹介 職名」



面接開始時における基本的な信頼関係の形成

第5因子

「初めのあいさつ 言葉」「主訴の聞き取り 切り出し方」



面接開始時と山場の口頭技法

第6因子

「自己紹介 役割」「視線 相手の目を見ているか」



自己開示による信頼関係形成

クライアント入室時の信頼関係形成、面接における質問時の配慮、面接時の身体技法、面接開始時における基本的な信頼関係の形成、面接開始時と山場の口頭技法、自己開示による信頼関係形成、という6つの因子が抽出されたが、面接開始時の技法にポイントが集中し、面接の質問技法における主訴の聞き取りと主訴の要約、及び、自己の役割の紹介といった、面接の山場における重要技法の理解に問題がある傾向が見受けられる。前述したように、本年は変則的な講義展開を行うことになってしまい、面接における重要なタームを覚えてはいても、それを具体的な技法、ロールプレイなどを通じた表現技法に差が出た結果となった。OSCE 評価表の個々の項目における潜在因子を発見することにより、2年時における実習教育におけるプレ事前学習の課題の発見、というテーマは本学が昨年取り組んでいることだが、変則的な講義展開により、その必要性を再認識できたといえる。これは昨年度の因子分析の結果と比較すると、本年度は第1因子の構成パターンが全てクライアント入室時における基本的配慮になっていることでも伺える⁶。入室時におけるクライアントとの接遇はむしろ重要な要因であるが、面接開始後の諸技法と比べると、身体的な気遣いが大部分を占めるものである。身体技法は主訴の要約倫理的配慮、質問技法の的確さ等の面接における中核となる技法に比べれば少々単純なものであり、論理的思考をあまり必要としない技法である。注意すべきは、身体技法と面接を構成する中核技法は、各々独立して存在

するものではなく、相互に関連して面接技法を構成しているということ、事前学習の早い時点で、学生に徹底する必要がある、ということである。本年度より、OSCE の評価結果は学生に返却することになっているが、身体技法のみが高得点である、ということに気をよくして、そこで学習の進展が止まってしまうことがないように、教員は再三学生に伝えていく必要がある。

4. 終わりに—新カリキュラム施行に向けての大学の課題—

2021年度からの新カリキュラムスタートに先立つ本年、新型コロナウイルス（COVID-19）の蔓延という未曾有の惨事により、多くの社会福祉士養成校が何らかの実習教育の修正を迫られることとなった。本学が所属する日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロックにおいても、新カリキュラムに対応する実習教育の検討委員会が設置されたが、それ以前に今年度の、この惨事の中の実習教育をいかに乗り切るか、という大きな問題に直面することとなった。巡回指導の方法、実習延期あるいは中止、代替カリキュラムの構成等々の諸問題に各養成校が直面することとなった。本稿で取り上げた実習前評価システムの本来の目的は実習生の選別であり、OSCE と筆記試験によって、実習に配属させる学生を選別することにより、実習生の質の担保を実践現場に保証するものであった。

今年度、北海道ブロックに所属する各養成校が、いかなる方法で実習前評価システムを実施したかは、前述した新型コロナウイルスの蔓延により、知ることができなかった。これまで、拙稿で紹介してきているように、本学では、カリキュラム上の問題で実習前評価システムを本来の目的で実施することはできず、2年次における実習課題の発見という、少々変則的な目的で実施してきた。さらに、ここ数年の実施成果から、2年次の夏季集中講義中に実施することにより、学生に、前期相談援助演習における面接技法の復習と後期学習におけるロールプレイに対するモチベーションの上昇にかかわる機能があることが発見された。これについて、杉本が昨年度の拙稿で「北海道ブロックという実習教育システムに参加している以上、そこで提示された課題を各養成校の事情に合わせて継続して実施することにより、新たな潜在機能の発見につながり、実習教育における順機能となると考える。」という、いささか大雑把な結論を述べたが、今年度は期せずして、学外の大きな社会的環境の変化（いうまでもなく新型コロナウイルスの蔓延）の影響によって、変則的に実施していた実習前評価システムにより、本学の抱える実習教育の課題の発見と明確化という、潜

在機能を再発見したこととなった。ここ数年、本紀要の紙上において、本学の実習前評価システム実施の様子を紹介してきたが、共通していたのは、「身体技法」に偏りがちな学習理解の様子、であった。それをいかに克服するかが、本学の2年次実習教育の課題であったが、具体的な方法論が提示できず、いたずらに3年、4年次に課題を先延ばししてきたことが実情であった。昨年度より因子分析を導入することにより、各評価項目間の関連を考察する必要があることは理解できたが、今年度の実施により、それをさらに一歩進めることができた。変則的な講義展開のもとに実施されたことにより、今年度の評価結果は、身体技法が突出した高得点を示したが、同時に、面接の中核技法たる評価項目との関連も示された。ゆえに、今後の本学の課題は、OSCEという一連の課程の中で、身体技法と面接中核技法との関係性、あるいは連続性の理解とその具体的な学習方法の提示である。これは、本学のこれまでのカリキュラムでいえば相談援助演習におけるコミュニケーション技法の応用にあたるものであるが、テキスト通りの学習展開では、コミュニケーション、面接技法、というように、個々の章題に即した学習で完結して、各々の章題の個別の理解で終わってしまっていた可能性が高い。新カリキュラム施行に向けての本学相談援助実習教育、さらに言えば社会福祉学は、相談援助演習における学習項目の連続性の構築と、その成果をOSCEによって確認し、3年次、4年次の本実習に昇華させることである。これは、実習時間の増加という新カリキュラムの実習教育において、2年次における相談援助演習における基礎学習のさらなる重要性を示すものであるとも考える。

註記)

1、今年度の本学における前期（本学では昨年度より

クォーター制を施行しており、前期を第1クォーター、第2クォーターとしている）における講義構成は先の事情により、少々変則的に展開された。まず、4月7日、8日と通常講義が開始されたが緊急事態宣言を受け、翌9日より休止、5月20日まで休校となったが、5月21日よりオンラインにより講義再開。2年時の相談援助実習教育の要となる相談援助演習Ⅰ（金曜1、2講）は5月22日よりオンラインにより講義再開、6月12日までteamsを使ったオンライン講義を行い、6月19日より通常の対面講義となり、8月の2週間の夏休み（うち、1週は集中講義でOSCE実施）をはさみ、9月25日に前期講義終了（本学では相談援助演習Ⅰは Semester制で実施している）。また、もう一つの重点科目である相談援助実習指導Ⅰ（月曜1講）は、5月25日にオンライン講義により講義再開、6月15日より対面講義となり、9月28日に前期講義終了となった（相談援助実習指導Ⅰも Semester制で実施）。なお、相談援助演習Ⅰは、3グループに分かれ、それぞれのグループを一人の教員が担当、共通のテキスト（「ソーシャルワーク演習ワークブック」編集代表 相沢譲治・植戸貴子 株式会社みらい2008年）を使い、演習型の講義を行う。相談援助実習指導Ⅰは、本学の相談援助実習各領域（児童、高齢、障がい1、障がい2、地域・行政）の担当教員5名が、それぞれ各領域についての講義を行う。

- 2、杉本「実習前評価システムに関する一つの考察Ⅳ」星槎道都大学研究紀要創刊号P99
- 3、昨年度の具体的な数値については、上記、拙稿を参照していただきたい。
- 4、今回は、諸事情により、各項目のポイントの深い分散にまで手が回らなかったが、今年度の評価者評価の探索的分析結果のみを掲載することとする。

記述統計^{a, b, c}

		統計量	標準誤差	
迎え入れる態度 言葉	平均値	4.4324	.18801	
	平均値の 95% 信頼区間	下限	4.0511	
		上限	4.8137	
	5%トリム平均	4.5916		
	中央値	5.0000		
	分散	1.308		
	標準偏差	1.14359		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	.50		
	歪度	-2.004	.388	

		統計量	標準誤差	
迎え入れる態度 動作	尖度	3.112	.759	
	平均値	4.4865	.17164	
	平均値の 95% 信頼区間	下限	4.1384	
		上限	4.8346	
	5%トリム平均	4.6517		
	中央値	5.0000		
	分散	1.090		
	標準偏差	1.04407		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	-2.362	.388	
	尖度	5.359	.759	
椅子の勧め方 言葉	平均値	4.2973	.19322	
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.9054	
		上限	4.6892	
	5%トリム平均	4.4414		
	中央値	5.0000		
	分散	1.381		
	標準偏差	1.17532		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	1.50		
	歪度	-1.598	.388	
	尖度	1.675	.759	
	椅子の勧め方 仕種	平均値	4.3784	.17905
平均値の 95% 信頼区間		下限	4.0152	
		上限	4.7415	
5%トリム平均		4.5315		
中央値		5.0000		
分散		1.186		
標準偏差		1.08912		
最小値		1.00		
最大値		5.00		
範囲		4.00		
4分位範囲		1.00		
歪度		-1.920	.388	
尖度		3.320	.759	
椅子の勧め方 どちらが先に座るか		平均値	4.6216	.18725
	平均値の 95% 信頼区間	下限	4.2419	
		上限	5.0014	
	5%トリム平均	4.8018		
	中央値	5.0000		
	分散	1.297		
	標準偏差	1.13899		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
4分位範囲	.00			

		統計量	標準誤差	
対面糸のとり方	歪度	-2.881	.388	
	尖度	6.945	.759	
	平均値	4.5405	.18822	
	平均値の 95% 信頼区間	下限	4.1588	
		上限	4.9223	
	5%トリム平均	4.7117		
	中央値	5.0000		
	分散	1.311		
	標準偏差	1.14491		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	.00		
	歪度	-2.394	.388	
尖度	4.463	.759		
初めのあいさつ 言葉	平均値	4.7297	.13781	
	平均値の 95% 信頼区間	下限	4.4502	
		上限	5.0092	
	5%トリム平均	4.8709		
	中央値	5.0000		
	分散	.703		
	標準偏差	.83827		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	.00		
	歪度	-3.328	.388	
	尖度	11.391	.759	
	自己紹介 所属	平均値	3.676	.3052
平均値の 95% 信頼区間		下限	3.057	
		上限	4.295	
5%トリム平均		3.751		
中央値		5.000		
分散		3.447		
標準偏差		1.8567		
最小値		1.0		
最大値		5.0		
範囲		4.0		
4分位範囲		4.0		
歪度		-.734	.388	
尖度		-1.484	.759	
自己紹介 職名		平均値	3.2432	.32282
	平均値の 95% 信頼区間	下限	2.5885	
		上限	3.8980	
	5%トリム平均	3.2703		
	中央値	5.0000		
	分散	3.856		
	標準偏差	1.96363		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		

		統計量	標準誤差	
自己紹介 役割	4分位範囲	4.00		
	歪度	-.244	.388	
	尖度	-2.003	.759	
	平均値	1.0811	.05976	
	平均値の 95% 信頼区間	下限	.9599	
		上限	1.2023	
	5%トリム平均	1.0045		
	中央値	1.0000		
	分散	.132		
	標準偏差	.36350		
	最小値	1.00		
	最大値	3.00		
	範囲	2.00		
4分位範囲	.00			
歪度	4.783	.388		
尖度	23.565	.759		
倫理的配慮 守秘義務の伝達	平均値	3.7838	.27162	
平均値の 95% 信頼区間	下限	3.2329		
	上限	4.3347		
5%トリム平均	3.8709			
中央値	5.0000			
分散	2.730			
標準偏差	1.65219			
最小値	1.00			
最大値	5.00			
範囲	4.00			
4分位範囲	2.50			
歪度	-1.041	.388		
尖度	-.703	.759		
倫理的配慮 メモを取ることの断り	平均値	4.0541	.27109	
平均値の 95% 信頼区間	下限	3.5042		
	上限	4.6039		
5%トリム平均	4.1712			
中央値	5.0000			
分散	2.719			
標準偏差	1.64901			
最小値	1.00			
最大値	5.00			
範囲	4.00			
4分位範囲	1.00			
歪度	-1.348	.388		
尖度	-.086	.759		
主訴の聞き取り 切り出し方	平均値	4.6486	.12385	
平均値の 95% 信頼区間	下限	4.3975		
	上限	4.8998		
5%トリム平均	4.7508			
中央値	5.0000			
分散	.568			
標準偏差	.75337			
最小値	2.00			
最大値	5.00			

		統計量	標準誤差	
	範囲	3.00		
	4分位範囲	.00		
	歪度	-2.188	.388	
	尖度	4.122	.759	
質問の方法の的確さ	平均値	3.2703	.16733	
	平均値の 95% 信頼区間	下限 3.6096		
	5%トリム平均	3.2447		
	中央値	3.0000		
	分散	1.036		
	標準偏差	1.01786		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		
	4分位範囲	1.00		
	歪度	.586	.388	
	尖度	-.677	.759	
	身体技法 傾聴の姿勢	平均値	4.9189	.05976
		平均値の 95% 信頼区間	下限 5.0401	
		5%トリム平均	4.9955	
		中央値	5.0000	
分散		.132		
標準偏差		.36350		
最小値		3.00		
最大値		5.00		
範囲		2.00		
4分位範囲		.00		
歪度		-4.783	.388	
尖度		23.565	.759	
身体技法 うなずき		平均値	4.9189	.05976
		平均値の 95% 信頼区間	下限 5.0401	
		5%トリム平均	4.9955	
		中央値	5.0000	
	分散	.132		
	標準偏差	.36350		
	最小値	3.00		
	最大値	5.00		
	範囲	2.00		
	4分位範囲	.00		
	歪度	-4.783	.388	
	尖度	23.565	.759	
	視線 相手の目を見ているか	平均値	4.9730	.02703
		平均値の 95% 信頼区間	下限 5.0278	
		5%トリム平均	5.0000	
		中央値	5.0000	
分散		.027		
標準偏差		.16440		
最小値		4.00		

		統計量	標準誤差
	最大値	5.00	
	範囲	1.00	
	4分位範囲	.00	
	歪度	-6.083	.388
	尖度	37.000	.759
声音の様子 明確さ	平均値	3.7568	.18342
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.3848
		上限	4.1287
	5%トリム平均	3.7853	
	中央値	4.0000	
	分散	1.245	
	標準偏差	1.11568	
	最小値	2.00	
	最大値	5.00	
	範囲	3.00	
	4分位範囲	2.00	
	歪度	-.249	.388
	尖度	-1.329	.759
	声音の様子 速さ	平均値	4.0541
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.6538
		上限	4.4544
	5%トリム平均	4.1456	
	中央値	5.0000	
	分散	1.441	
	標準偏差	1.20060	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	2.00	
	歪度	-.923	.388
	尖度	-.379	.759
	声音の様子 抑揚	平均値	3.4054
	平均値の 95% 信頼区間	下限	2.9789
		上限	3.8319
	5%トリム平均	3.4249	
	中央値	3.0000	
	分散	1.637	
	標準偏差	1.27931	
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	3.00	
	歪度	.012	.388
	尖度	-1.448	.759
	主訴の要約は的確であったか	平均値	2.4865
	平均値の 95% 信頼区間	下限	2.2186
		上限	2.7544
	5%トリム平均	2.4550	
	中央値	2.0000	
	分散	.646	
	標準偏差	.80352	

		統計量	標準誤差
	最小値	1.00	
	最大値	5.00	
	範囲	4.00	
	4分位範囲	1.00	
	歪度	.895	.388
	尖度	1.625	.759

- a. 身体技法 手や足を組んでいないか は定数です。よって省略されています。
 b. 視線 きよろきよろしていないか は定数です。よって省略されています。
 c. 視線 相手の動きを追っているか は定数です。よって省略されています。

5. 評価者評価同様に、利用者評価においても、今回は探索的の分析を掲載するにとどめる。

記述統計

			統計量	標準誤差
気持ちよく迎えられたか	平均値		3.5135	.15798
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.1931	
		上限	3.8339	
	5%トリム平均		3.5150	
	中央値		4.0000	
	分散		.923	
	標準偏差		.96095	
	最小値		2.00	
	最大値		5.00	
	範囲		3.00	
	4分位範囲		1.00	
	歪度		-.040	.388
	尖度		-.868	.759
ワーカーの役割をよく理解できたか	平均値		3.4324	.19196
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.0431	
		上限	3.8217	
	5%トリム平均		3.4550	
	中央値		4.0000	
	分散		1.363	
	標準偏差		1.16763	
	最小値		1.00	
	最大値		5.00	
	範囲		4.00	
	4分位範囲		2.00	
	歪度		-.271	.388
	尖度		-1.131	.759
滑らかに相談関係には入れたか	平均値		3.4324	.18397
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.0593	
		上限	3.8055	
	5%トリム平均		3.4550	
	中央値		4.0000	
	分散		1.252	
	標準偏差		1.11904	
	最小値		1.00	
	最大値		5.00	
	範囲		4.00	
4分位範囲		1.50		

		統計量	標準誤差	
相談事を十分に聞かれたと感じたか	歪度	-.199	.388	
	尖度	-.912	.759	
	平均値	3.5405	.18419	
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.1670	
		上限	3.9141	
	5%トリム平均	3.5751		
	中央値	4.0000		
	分散	1.255		
	標準偏差	1.12038		
	最小値	1.00		
	最大値	5.00		
	範囲	4.00		
	4分位範囲	1.50		
	歪度	-.232	.388	
尖度	-.816	.759		
相談事を十分に話したと感じたか	平均値	3.5946	.17527	
	平均値の 95% 信頼区間	下限	3.2391	
		上限	3.9501	
	5%トリム平均	3.6051		
	中央値	3.0000		
	分散	1.137		
	標準偏差	1.06613		
	最小値	2.00		
	最大値	5.00		
	範囲	3.00		
	4分位範囲	2.00		
	歪度	.030	.388	
	尖度	-1.244	.759	
	相談事を十分に理解されたと感じたか	平均値	3.4865	.19993
平均値の 95% 信頼区間		下限	3.0810	
		上限	3.8920	
5%トリム平均		3.5150		
中央値		4.0000		
分散		1.479		
標準偏差		1.21613		
最小値		1.00		
最大値		5.00		
範囲		4.00		
4分位範囲		3.00		
歪度		-.163	.388	
尖度		-1.231	.759	

6, 杉本「前掲論文」P102。2019年度のOSCE実施における因子分析の結果, 第1因子は「自己紹介 役割」「自己紹介 所属」「倫理的配慮 守秘義務の伝達」「椅子の勧め方 どちらが先に座るか」→面接開始時の配慮 となっている。つまり, 本年度の結果

は入室時における身体技法が第1因子となっているが, 昨年度はクライアントが入室し, 椅子に座り, 面接を開始するところが第1因子となっている。

7, 杉本「前掲論文」P102

One Study Considered with the Estimational System for Social Work Practice V

SUGIMOTO Daisuke UEHARA Masaki

Abstract

A learning problem of the science to the new curriculum which is begun from fiscal year 2021 when the science is derived from a working report in fiscal year 2020 of an evaluation system, the result analysis and those before the training which is being put into effect is shown by writing.